

生活指導だより

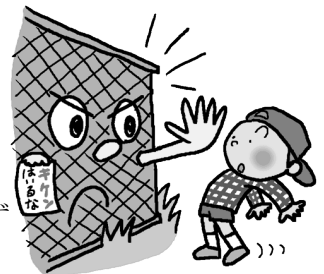
平成27年3月10日

練馬区立大泉北中学校

次のステップへの準備はできていますか

今年度も残すところわずかになりました。この1年間色々なことがあったと思います。その中で皆さんはどのように成長できたのでしょうか？4月から、朝礼などで人間関係のこと（いじめ）のことを話してきました。誰もが安心して安全に楽しく生活できる大北中になりつつあると実感しています。この流れを次のステップに生がせるように、次のことに留意して生活しましょう。

- 1 自他の生命を尊重する思いやりの心を大切にするとともに、ルールやマナーを再確認しましょう。
 - ・4月から新たな環境での生活が始まります。希望をもって臨むために、自分が挑戦したいことや目標をもってください。同時に、あなたの周りの人も同じように希望をもって生活しようとしていることに気づき、お互いに協力していけるようにしていきましょう。
 - ・あなたが生活する場所（社会・家庭・学校など）でのルールやマナーを再確認してください。今までよりできることが増え、行動範囲も広がってきました。その分責任も増えてきました。「知らなかった」では済まないこと、「これくらいはいいかな」など軽い気持ちは通用しなくなります。
 - ・新しいことへの希望と同時に不安も出てきます。不安を解消したり、小さなものにするためには、誰かに相談することが一番です。自分一人で悩まずに話してみてください。先生方はいつでも話を聞く準備ができています。
- 2 安全に生活するために、身の回りの危険について確認しよう。



- ・不審者による危害、性被害、誘拐などニュースで報道されます。最近も殺人事件の報道がされていました。いつ、誰が事件に巻き込まれるか分かりません。自分の生活エリアをチェックし、危険を回避する努力をしましょう。
- ・いつ起こるか分からないことに大地震があります。緊急時の家族との連絡方法や対処方法を確認してください。練馬区の小中学校はすべて一時避難所になっていますので、避難が必要な時はどこへ避難するか決めておきましょう。
- ・自転車運転でのわき見や、一時不停止、整備不良、ながらスマホなど、ちょっとした気の緩みから交通事故に遭ってしまうことがあります。自転車を運転している時は、自分の身を守ることと同時に、他者への責任も負っていることを意識しましょう。

- ・学年が上がることで、携帯電話やスマホを所有できたり、新たな交友関係ができたりします。便利な道具ですが、使い方を間違えるととても恐ろしい道具にもなります。スマホの無料通話アプリは情報が外から見えないため、犯罪に使用された場合、事件になってから気付くことになります。上手く使えれば犯罪を未然に防ぐこともできるかもしれません。携帯電話やスマホを持つ場合には、家族で使い方を話し合い、自分の身を守るとともに、人に嫌な思いをさせない注意をしてください。

- ・いかにも存在するような役職や名前を名乗り、クラス名簿や電話連絡網の個人情報を狙っている人がいます。絶対に教えないようにしてください。

3 生活リズムが乱れないようにしましょう。

- ・春休みには友だちと出かけたりすると思います。そこで他校生と知り合いになり、さらに行動範囲（場所・時間）が広がり、夜遅くの出歩き、深夜徘徊、無断外泊につながり、喫煙、飲酒、万引きなど犯罪行為に結びついてしまう場合もあります。一人ではできない（やらない）ことも、何人か仲間がいるとやってしまうことがあります。外出時の約束など家族で確認してください。

4 何かあった時には学校にも連絡を入れてください。

- ・事件や事故に遭ってしまった。その場合の最優先連絡先は、「110番」「119番」「家族」です。その後、学校（03-3925-9230）にも連絡を入れてください。

安全教育推進校のまとめ

あいさつは、大北中の伝統であり人間関係作りの基本です。今年度も生徒会役員会を中心に全校で取り組んできました。また、地域であいさつが盛んになれば、防犯効果も期待できます。今年度学習した安全学習での「自他の安全」を実現するための重要な手段の一つとなります。ご近所の方、お世話になった方などには、進んであいさつをしましょう。少なくとも、あいさつをされたら必ず返礼しましょう。皆さんも自分があいさつをしたのに、あいさつが返ってこないときさみしいですね。

安全教育推進校のまとめとして、生徒会役員会を中心にパンフレットを作成し、地域の小学校（大泉第一小、大泉北小、橋戸小）にも配布しました。パンフレットにあるように大北中生は、地域の安全に積極的に貢献していきます。保護者・地域の皆様にもご協力をお願いいたします。

リーダーとは

皆さんは、ボスとリーダーについて考えたことはありますか？ボスもリーダーも同じような存在ととらえられがちですが、イギリスの高級百貨店チェーン創業者であるハリー・ゴードン・セルフリッジ氏は、大人のビジネス社会のモデルとして、ボスとリーダーの違いを次のように捉えました。この見方は、中学生にも分かりやすく、中学校生活にも応用できることなので紹介します。

- ボスは部下を追い立てる。リーダーは人を導く。
- ボスは権威に頼る。リーダーは志・善意に頼る
- ボスは恐怖を吹き込む。リーダーは熱意を吹き込む。
- ボスは私と言う。リーダーはわれわれという。
- ボスは時間通りに来いと言う。リーダーは時間前にやってくる。
- ボスは失敗の責任を負わせる。リーダーは黙って失敗を処理する。
- ボスはやり方を胸に秘める。リーダーはやり方を教える。
- ボスは仕事を苦役に変える。リーダーは仕事をゲームに変える。
- ボスはやれと言う。リーダーはやろうと言う。

※ 権威：ずば抜けた知識・判断力・実力

※ 苦役：肉体的（精神的）にはなはだしい苦痛を伴う労働



保護者の皆様へ

今年度も本校へのご理解・ご協力ありがとうございました。本校では中学生の今、身に付けて欲しい知識、心のあり方、健康、危険に備えることなどを教育計画に基づいて指導しております。学んだこと、知識として得たことが、実生活の中で生かされてこそ本当に自分のものになったと言えると思います。そのためには、ご家庭、地域の皆様との連携が欠かせません。保護者の皆様もお忙しいこととは思いますが、次年度も学校公開日などには、ぜひ、ご来校いただき、生徒の成長のためにご意見をお聞かせください。

来年度は、大泉第一小学校・大泉北小学校と授業研究をさらに進め、小中一貫教育を実現して参ります。そして、今までにもまして地域の中の学校として取り組んでいきますので、今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

☆学校へのご意見などございましたらお願いします。☆（切り取ってご使用ください。）

【読み物資料1】生徒の規範意識について（国立教育政策研究所文書より抜粋）

「規範意識」に焦点を当てるのは、問題行動の当事者が、自分の行為・行動に対して罪悪感を抱いていないのではないか。そのことが問題行動の原因や背景にあるのではないかと思われる事例が増えたからである。倫理観・正義感・道徳心等の欠如の議論についても同様である。

「規範意識」が欠けている原因については、いろいろと考えられる。もし、それが「教えられなかった」「身に付かなかった」ということであるなら、その対応は「きちんと教える」ということで構わない。だが、今の子どもの「規範意識」の問題は何か、どこにあるのか。欠如をめぐる問題は、そうした理解や対応で正しいのであろうか。私は、今の子どもの「規範意識」をめぐる問題は、「身につけている・いない」という以前にあると感じている。そもそも、彼らは社会というもの、他人というものに対して、きちんとした認識や感覚を育てていない。彼らが健全な「規範意識」を持ち得ないのはその当然の帰結である。というのが私の理解である。例えば、

- ・「他者の存在を大切なもの（意味あるもの）」と感じていない。
- ・「人は様々な他者（社会）の恩恵があって初めて生きていける」と感じていない。
- ・「他者の存在は自分の欲求を達成する際の障害でしかない」と感じている。
- ・「自分の世界に没入すれば他者の存在は気にならない」と感じている。
- ・「そもそもそうしたことをあれこれ言われること自体が「かったるい」と感じている。

といったような場合には、いくら「規範意識」を説いたところで無駄である。

そもそも人が他者や社会に好意的な感情を抱くのは、自分が相手から「受け入れられている」「認められている」という感覚を抱く体験から始まる。自分の行動を誰かが見てくれている、自分のために誰かが何かをしてくれている。そういった他者からの働きかけや他者との交流の「自覚」が基盤となり、他者とかかわりあいたいという思いが生まれる。

昔であれば、誰かから何かをしてもらったときには、親は子どもの頭に手を添えてお辞儀をさせながら、「ほら、ありがとうは？」などと声をかけた。そして、まわりの大人も、「よかったね。〇〇してもらえて！」と口を合わせた。そんな形で、喜びや感謝の気持ちを自覚させる体験を積み重ねさせてきたのである。しかしながら、そうした体験が乏しくなり、他者や社会というものに対する自覚が育っていない子どもが増えた。また、今の子どもの場合、誰かのために何かをすることを、誇らしく思ったり、喜びに感じたりすることも少ない。誰かのために何かをして「（感謝されて）気持ちがよかった」「（相手に喜んでもらえて）うれしかった」という体験が乏しいからである。誰かのために何かをすることは「損をすること」、我慢をすることは「嫌なこと」であるかのような感覚さえある。やはり、他者との接触や交流の際に、まわりにいた大人から、「えらかったね!」「みんな喜んでいたよ!」などと声をかけられることが減り、それが誇りであり喜びであることを自覚できていないからである。

自分がしたことを感謝されてうれしかった、自分は頼りにされている、自分も誰かの役に立っている、みんなから認められている…。他者と交流することで得られるそうした感情を、私は「自己有用感」と呼んでいる。似た言葉に、自己肯定感・自己存在感・自尊感情などがあるが、自分本位でなく、他者が存在して成り立つ感情である点を強調する必要性から、意識的に「自己有用感」の語を用いるようにしている。

この「自己有用感」は、何も特別な感情というわけではない。少し前までは、家族や近隣の中で自然に身につけてきたものである。兄弟数・家族数が多く、近隣の子ども数が多かった時代には、お手伝いや遊びの中で、子どもにも年齢に応じた役割が割り振られていた。もちろん、年長者には年少者よりも責任ある役割が与えられた。それは、重荷である一方で誇りでもあり、特権である一方で責任感も求められた。どんな子どもも、そうした役割を果たすことを通して「自己有用感」を獲得し、社会の一員であることを自覚した。それが、昔の子どもの「規範意識」を支えていたのである。

ところが、今の時代には、そういった体験自体が極めて稀になってきた。子どもは「してもらう」ばかりで、「させられる」体験や「してあげる」体験に乏しい。さらに、形式的な平等主義がいきわたり、年長者も年少者も同じようにしか扱われなくなった。どのようにしたら自然には身に付きにくくなった「自己有用感」を子どもに獲得させ「規範意識」を育てられるのか。子ども自らが体験を通して「自己有用感」を獲得し、それに基づく「規範意識」を育むには、時間と手間をかけて子どもに体験や機会を与え、教師自身が地道な努力を重ね、互いの連携協力を図りつつ、着実に教育活動を進める必要がある。

【読み物資料2】思いやりの心診断 インターネット資料

大北中においても、「思いやりの心」は教育目標の1つに挙げられるほど大切なものです。普段の何気ない行動や、物事への関心のもちかた、感じ方、気遣いなどチェックしてみましょう。

- 1 「ありがとう」や「ごめんなさい」が素直に言える。
- 2 待ち合わせの場所には時間に余裕を持って出掛ける。
- 3 深夜は携帯にメールを送らないようにしている。
- 4 喫茶店やファミレスでメニューを返す時は両手で渡す。
- 5 人を助けた事がある。
- 6 世のため人のためになろうと思う。
- 7 他人の痛みが分かる。
- 8 人の誕生日にはプレゼントを贈る。
- 9 人の話はよく聞く。
- 10 人の健康には気を遣っている。
- 11 借りたままの物が有る。
- 12 最近、嘘をつく事がある。
- 13 困った顔をされても正論なら押し通す。
- 14 勝つためには手段を選ばない。
- 15 風邪を引いても人とよく接する。
- 16 ホテルや旅館で布団やタオルは直さない。
- 17 目の前にゴミが落ちていても拾わない。
- 18 駐車場では入り口に近いところに車を止める。
- 19 靴を脱いでも揃えない。
- 20 人前でも平気で携帯で電話をする。

チェックの結果はどうだったでしょうか。思いやりの心を大切にする人になってください。いい結果が得られなかった人は、もしかすると自己中心的なことが多いのかもしれないよ。